

事 務 連 絡

平成 3 1 年 4 月 2 5 日

文部科学省初等中等教育局

健康教育・食育課長 殿

厚生労働省健康局健康課長

厚生労働省健康局結核感染症課長

麻しんに関する特定感染症予防指針の一部改正について（協力依頼）

学校等における麻しん対策については、別紙 1 の「学校における麻しん対策について」（平成 30 年 5 月 16 日健感発 0516 第 4 号厚生労働省健康局結核感染症課長通知）等により、これまで御対応いただいているところです。

今般、厚生科学審議会における議論を踏まえ、別紙 2 のとおり、麻しんに関する特定感染症予防指針（平成 19 年厚生労働省告示第 422 号。以下「指針」という。）が改正されました。

つきましては、改正後の指針の内容も踏まえ教育委員会及び学校等の設置者において御協力いただきたい事項は下記のとおりですので、教育委員会及び学校等の設置者に対し、周知していただきますようお願いします。

また、学校等における麻しん対策については、「学校における麻しん対策ガイドライン第二版」（平成 30 年 2 月作成）も参照いただくほか、別紙 3 及び別紙 4 のリーフレット等も活用いただきますよう、併せて周知のほどよろしく申し上げます。

なお、別紙 5 のとおり衛生主管部局宛て通知しましたので、御承知おきいただきますようお願いします。

## 記

- 1 市（特別区を含む。）町村教育委員会は、学校保健安全法（昭和 33 年法律第 56 号）第 11 条に規定する健康診断（以下「就学時健診」という。）の機会を利用して、当該就学時健診の受診者について麻しんのり患歴（過去に検査診断で確定したものに限り。以下同じ。）及び第二期（小学校就学の始期に達する日の 1 年前の日から当該始期に達する日の前日までの間）の定期の予防接種の接種歴（母子健康手帳、予防接種済証等の記録に

基づくものに限る。以下同じ。)を確認し、麻しんに未り患又は麻しんのり患歴が不明であり、かつ、麻しんの第二期の定期の予防接種を受けていないことが判明した場合には、衛生主管部局と連携し受診者が定期の予防接種を受けられるよう適切な対応をとること。（改正後の指針第三の二の3 関係）

2 学校の設置者は、学校保健安全法第 15 条第 1 項に規定する職員の健康診断等の機会を利用して、当該学校等の職員の麻しんのり患歴及び予防接種歴を可能な限り確認し、麻しんに未り患又は麻しんのり患歴が不明であり、かつ、麻しんの予防接種を必要回数（現行の定期の予防接種において必要とされる回数をいう。以下同じ。）である 2 回受けていない又は麻しんの予防接種歴が不明である場合には、当該予防接種を受けることを推奨すること。（改正後の指針第三の三の 6 関係）

3 学校の設置者は、学校保健安全法第 13 条第 1 項に規定する児童生徒等の健康診断等の機会を利用して、学校等の児童生徒等の麻しんのり患歴及び予防接種歴を確認し、麻しんに未り患又は麻しんのり患歴が不明であり、かつ、麻しんの予防接種を必要回数である 2 回受けていない又は麻しんの予防接種歴が不明である場合には、児童生徒等又は保護者等に対して麻しんに関する情報の提供を行うこと。（改正後の指針第三の四の 3 関係）

参考 1：麻しんについて

[https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryou/kenkou/kekaku-kansenshou/measles/index.html](https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekaku-kansenshou/measles/index.html)

参考 2：改正後の指針全文

<https://www.mhlw.go.jp/content/000503060.pdf>

参考 3：学校における麻しん対策ガイドライン第二版

（平成 30 年 2 月作成）

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/id/655-disease-based/ma/measles/idsc/555-measles-guidlines.html>